

会 議 録				
平成24年度第7回 社会教育委員の会議	日 時	平成25年1月16日(水) 午前9時30分～午前11時30分	場 所	小金井市役所第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	本川議長、伊藤副議長 倉持、小林、佐野、樹、中村、松田 各委員		
	その他 事務局	欠席 田尻、本多 各委員 西田生涯学習部長、天野生涯学習課長、田中図書館長、大関公民館長 林生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 協議事項				
(1) 平成24年度小委員会について				
(2) 小金井市教育委員会の基本方針及び教育施策について				
(3) その他				
2. 報告事項				
(1) 平成24年度成人の日記念行事について				
(2) 蔵書点検に伴う図書館特別休館について				
(3) 第22期小金井市公民館企画実行委員会の選任について				
(4) その他				
1. 協議事項				
(1) 平成24年度小委員会について				
(本川議長)				
早速であるが協議事項として、(1)の平成24年度小委員会について。日程であるが2月13日が5回目である。皆さん忙しいので、できるだけ皆さんの都合のいい日程をつくりたいと思っている。				
(伊藤副議長)				
平成25年度は、私は変えたほうがいいような気がする。				
(本川議長)				
日程については今のところ第2水曜日の午前中ということにさせていただいている。小委員会のメンバーに都合を伺いながらやってきているつもりである。				
(伊藤副議長)				
平成25年4月以降ということか。				
(本川議長)				
そうである。そのことについては、今度の小委員会でもお話しさせていただいて、				

2月の本会議に提案という形をとらせていただこうと思うが、それでよろしいか。では、2番目の、小金井市教育委員会の基本方針及び教育施策についてお願いします。

(2) 小金井市教育委員会の基本方針及び教育施策について

(天野生涯学習課長)

まず、小金井市教育委員会の基本方針についてであるが、平成20年1月24日に、小金井市教育委員会で決定した基本方針、教育目標である。基本方針については1から4までであるが、1から3については学校教育に関するもので、既に平成24年1月8日の教育委員会で決定している。基本方針4については社会教育にかかわるものということで、社会教育委員の会議で諮ってからということで、こちらのみ、追って教育委員会で諮る予定になっている。

今回提出した資料については、議案として出す予定のものであり、こちらで諮ったものをさらに教育委員会に提出して、そこで最終的に決定するという事になっている。

基本方針4についてであるが、こちらは問題がなければ、このまま変更なしとして議案として提出することを考えている。

教育施策については年度ごとに定めているので、まず今年の変更点についてご説明する。資料として、基本方針と新旧対照表をそれぞれ提出している。A4横の新旧対照表をごらんいただきながら説明する。

まず変更箇所が、1点目、(3)のスポーツ・レクリエーション活動の推進の中の⑤である。左が平成25年度の新しいもの、右が平成24年度のものになっている。スポーツ祭東京2013は、平成25年度が本大会を実施する年であるので、実態に合うように改めている。前回、リハーサル大会の実施という形だったものを、本大会実施に向けての文言に変更した。

続いて2点目、(4)文化財の保存と啓発活動の推進の中の②である。小金井市史の編さんについては、市史編さん大綱及び市史編さん年次計画に基づいて、平成22年度から編さん活動に取り組んでいる。平成25年度以降は順次、資料編、通史編を刊行していくという計画になっているので、これまではそれに向けて取り組んでいく、編さん活動の充実を図るといような文言になっていたが、実際に刊行が始まるということで、年次計画に基づき順次発行するといような文章に改めた。

続いて3点目、同じく(4)文化財の保存と啓発活動の推進の中の④である。名勝小金井桜復活事業については、玉川上水・小金井桜整備活用実施計画という計画に基づき、進めている。これまで、ヤマザクラ並木の整備を中心に進めてきたが、平成25年度以降、その計画の中で位置づけられている人道橋の整備が具体的に動き出したので、その辺を文言として加えた。

4点目、(6)図書館の充実の中の①である。小金井市立図書館運営方針を新しく改定する予定となっており、その中で、「いつでも」「どこでも」「だれでも」「なんでも」

利用できるというような文言を使っているので、それを踏まえる形で変更をしている。

5点目、図書館の充実の②である。小金井市立図書館運営方針については、現在、改定に向けて作業を進めており、平成25年度からは新しい運営方針に基づき図書館施策を推進していくことから、このような形で文章を改めている。

続いて、同じく図書館の充実の中の③である。(仮称)貫井北町地域センター図書館貫井北町分室開設に向けた準備等について、現在の進捗状況を踏まえ、文言を改めている。

続いて、同じく図書館の充実の中の④である。子供の読書活動の推進については、第二次小金井子供読書活動推進計画に基づき行っているところであるが、本計画については平成25年度で計画が終了ということで、このような文言に改めている。

8点目、同じく図書館の充実の中の⑤である。図書館のICT化推進について、平成24年度教育施策の説明において教育委員会でご指摘いただいた点を踏まえ、新たに項目立てを行ったものである。

9点目、(7)社会教育施設の整備の④である。図書館と同様に、(仮称)貫井北町地域センターの建設工事について、平成24年度から平成25年度にかけて建設工事を実施する計画になっているので、こちらも進捗状況に応じた変更となっている。

最後に10点目、(7)社会教育施設の整備の⑤について、図書館本館の耐震診断については既に実施済みということで削除している。こちらを削除したことに伴い、平成24年度の⑥に書かれていたものを⑤として繰り上げている。

変更点については以上である。

その他として、先ほど申し上げたとおり、最終的な決定は教育委員会という形になる。こちらで諮り必要に応じて訂正を加えたものを、再度教育委員会に諮って、決定するという流れになる。ここで諮った結果が最終的なものではないということをご承願したい。

説明は以上である。

(本川議長)

何かご質問、ご意見はあるか。

(伊藤副議長)

小金井桜の件で、(4)の②で、これは人道橋のかけかえということで、特にふやしたわけではないのか。

(天野生涯学習課長)

今、都立小金井公園の正門の前あたりに歩道橋があるが、あれを撤去して、ほぼ同じ位置に平面交差の橋をかけかえるという計画になっている。

こちらは、史跡・名勝の価値の向上を図るという文言になっているが、その理由として、今かかっている歩道橋が史跡・名勝景観にふさわしくないということもあり、それを撤去して、新たに名勝として景観スポットとなるような新しい橋をかけるという計画になっている。

(伊藤副議長)

わかった。ありがとう。

(本川議長)

では私のほうから。図書館の充実というところで、「なんでも」という文言が追加されたという、その辺の説明をしていただきたい。

(田中図書館長)

図書館の理念として、「いつでも」「どこでも」「だれでも」というのは普通言われているが、そこにプラスされて「なんでも」、求められる資料は何でも提供するという一つの考え方がある。それについて、今回、図書館運営方針を改定する中で、この4つのフレーズが並んでいたのも、こちらについても「なんでも」を追加させていただいた。

(本川議長)

ありがとう。

(伊藤副議長)

これからIT時代であるから、いろいろな電子機器の利用なども考えておられるのか。

(田中図書館長)

電子機器とかそういうことではなく、市民の方がこういった資料をお求めというときに、図書館ではそれについてできるだけ応える、用意するという精神で取り組んでいくという理念を書いている。

(伊藤副議長)

調査をして資料を集めてということか。

(田中図書館長)

そうである。

(本川議長)

ほかにあるか。ないようであれば、社会教育委員の会議のほうでは、これに対して特に変更無しということ結構である。

(天野生涯学習課長)

それでは、2月に第2回教育委員会定例会が行われるので、そこに議案としてこの形で提出させていただきたいと思う。

(西田生涯学習部長)

文言等についてはなお調整する可能性があるかもしれないが、それはご承知おきいただければと思う。

特に公民館のところ、特に貫井北町地域センターについてふれていないところもあるので、その辺のところ調整が入るかもしれない。それだけご承知おきいただければと思う。このまま出す可能性もあるが、まだ調整の時間をいただく。

(本川議長)

皆さん、ご了承くださいるようお願いする。

では、3番目のその他で、生涯学習推進計画についてということで、課長からお願いする。

(3) その他

(天野生涯学習課長)

第2次小金井市生涯学習推進計画についてであるが、こちらは平成21年度から平成25年度までの計画となっている。そうすると、平成26年度から通常は第三次という形になるが、こちらについては長期総合計画との計画期間の整合を図るということで、前回、延伸についてはおおむね了承をいただいていると思う。

ただ、策定した時点で、こちらは第3次小金井市基本構想後期基本計画に基づいて策定しているが、現行の総合計画は既に第4次小金井市基本構想前期基本計画というふうに上位計画が変わっている。2年間延伸するに当たり、最低限必要な見直しがあるのであれば確認したい。

毎年、第2次小金井市生涯学習推進計画の進捗状況調査を各担当課にかけているが、その際、実績を調査するとともに、第4次前期基本計画との整合性がとれているかどうか、この調査の中であわせて確認をとりたいと考えている。

今日お示した資料では、まず、第2次小金井市生涯学習推進計画に記載されている事業内容ごとに、平成23年度の実績、実施した内容を調査する。それと、平成24年度の方向性として、計画策定時に例えば「継続」だったものが「推進」になっているとか、あるいは「検討」となっていたものが実際には実施されて「継続」となっているなどの変化があるかどうかと思うので、その辺の調査をさせていただく。

次に、平成25年度の方向性というものもあわせて調査項目としており、こちらは平成25年度の予算がまだ確定していないので予算要求ベースになってしまうが、担当部署として方向性、このまま継続でいくのか推進でいくのか、そのような確認をさせていただく。

最後に、方向性を確認した上で、計画策定時の方向性と変わっていたものがあつた場合、その理由が上位計画の変更によるものなのかどうかを確認したいと考えている。

この調査に基づき、延伸する2年間に改めて検討したい。そのための資料として調査をかけたいと考えている。

あわせて、見直しに反映させる必要があるかどうかと思うので、この間に新規事業があるかどうかの調査も行う。

それと、前段で、第3次基本構想と第4次基本構想の間で、生涯学習に係るものがどの程度変化があるのかを確認してみたが、基本構想同士で載っている範囲内では特段の変化はないと、事務局としては認識しているところである。

あとはそれぞれの担当の部署に調査をして、上位計画に基づいて変更点があれば、それを見直しに反映していきたいという形で調査をする。

このような調査をするということについて、何かご意見があればこの場でご協議いただきたい。

(本川議長)

ありがとう。ということであるが、ご意見はあるか。

(佐野委員)

これは第4次小金井市基本構想の前期基本計画との整合性を図るということか。

(天野生涯学習課長)

そうである。

(佐野委員)

この間お聞きしたら、今はまだ前期の基本計画しかできていないということで、後期が始まる2年ぐらい前から、後期についてはいろいろ検討するというお話を伺った。であるから、今回のこの調査内容というのは、あくまでも前期の基本計画に整合しているかどうか。

(天野生涯学習課長)

そうである。今回、延伸する目的としては、後期基本計画と計画期間をそろえるためである。先に始めてしまうと、両方とも5年計画なので、また最後の3年間がずれたものになってしまう。それを避けるために2年間延伸して、後期基本計画と計画期間をそろえるという形にするということである。

ただ、延伸する前の間に、現在できている生涯学習推進計画と上位計画が既にずれちゃまっているので、そのずれ部分を見直す必要があるのか、あるいは特段大きなずれがなければ、そのままの形で継続して延伸していくか、それを確認するための調査である。最終的には、どちらも生涯学習推進検討委員会という、庁内の部長職で構成する委員会があり、そちらで最終的に決定するという形になる。

まずは、こちらの調査をかけた結果、見直しが必要なのかどうかというのをこちらの会議で諮っていただき、そこでおおむね出た結果をもとに、その会で最終決定をするという感じになるかと思う。

(本川議長)

この回答を2月にいただいて、次の計画のために我々が直ぐに何かすることがあるだろうか。

(天野生涯学習課長)

平成25年度まではもとの計画が生きているので、おおむね延伸するという方向、それを前提に検討するのであれば、そんなにタイトなスケジュールではないと思っている。

仮に、第3次小金井市生涯学習推進計画を延伸せずに次のものをつくるということになると、平成26年度からということになるので、来年度早々から作業にとりかからなくてはいけないということで、そうなった場合はかなりタイトなスケジュールになる。延伸を前提ということで進めるのであれば、そんなに急がなくてもよいかと思

う。

(本川議長)

その確認と、私たち社会教育委員の会議としては、それまでの間の1年間は第2次を一つずつ見ながら、ここで回答が出るわけであるから、それと照らし合わせながら、次に向けてのウォーミングアップという不遜かもしれないが、勉強の時間と今のところは捉えているが、そういうことでよろしいか。

(天野生涯学習課長)

はい。

(本川議長)

ここの調査対象課というのが、これだけの部署がかかわっているということであるか。これを見て一目瞭然でびっくりしたが、全部の部署でどのくらいあるのか。知らないで教えていただきたい。その中の26と言ったが。

(天野生涯学習課長)

課で無いところとしてスポーツ振興係というのがある。計画策定時は課として独立していたので分けづらいところがあり、現在は生涯学習課内の係であるが、スポーツ振興係ということで独立させている。

それが一点と、あと、1つの事業を複数の課で取り組んでいるような事業もあるので、そういうものが個別に出てしまっているところもある。

市庁内の部署数については、現時点で、市長部局は会計課を含め、7部33課。教育委員会は、2部6課、合計9部39課ある。

ただ、計画策定時には、資料にもあるが、水道課、スポーツ振興係が独立しているので、今より2つ多い形になっていた。であるので、比較すると41部署中26部署ということである。

調査対象に含まれていない課は、市民部の税部門をはじめ、土木建築部門、都市整備部、開発営業本部、会計課等々で14課ある。(*財政課・管財課・市民課・保険年金課・市民税課・資産税課・納税課・都市計画課・まちづくり推進課・道路管理課・建築営繕課・再開発課・区画整理課・会計課)

(本川議長)

変な質問で申しわけない。26というところとかなり多いという感じがした。生涯学習としてどういう意味合いを持ってやればいいのかを考えたとき、いろいろ話題が出ている、そういうことも加味しながら、1年間勉強させていただけるといいかなと感じたので、忘れるといけないので発言させていただいた。

ほかに何かあるか。これは協議事項だが、こういう進捗状況の調査をするということと、ご了承いただいてよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

(本川議長)

では、そのようにお願いします。協議事項のその他は、ほかにあるか。では、協議事

項は終わる。

2. 報告事項

(1) 平成24年度成人の日記念行事について

(本川議長)

それでは、(1) 平成24年度成人の日記念行事について、お願いします。

(天野生涯学習課長)

平成24年度成人の日記念行事について報告させていただきます。

まず、報告に先立ち、お忙しいところ、また大変足下の悪い中、ご出席いただいた方々にお礼を申し上げたいと思う。どうもありがとう。では、平成25年1月14日に行った成人の日記念行事について報告する。会場については、昨年引き続き市民交流センターで実施した。皆さんご承知とは思いますが、当日はまれに見る大雪に見舞われたが、新成人の方々に構成する実行委員の頑張り、それから関係団体等のご協力、教育委員会の各職場から応援いただいた職員の協力により、大きなトラブルもなく、無事終えることができた。

交流センターでの開催は2回目であり、マニュアルを作成し、また教育委員会の管理職者を中心に各セクションの担当者の打ち合わせを2度にわたり実施したことも、成功につながった大きな要因だったと考えている。

参加者数は、今年の新成人、平成4年4月2日から平成5年4月1日までに生まれた方々1,189人が対象となっていたが、そのうち男性313人、女性284人、計597人の市内の方が出席した。市外の方が49名出席しているので、それを含めると646人の参加者という結果である。市内のみの出席率はちょうど50%ぐらいとなるので、おおむね例年並みか若干少ない程度の参加率となっている。

続いて概要である。昨年度は実施できなかった貫井囃子を本年度は実施した。本会場となった大ホールの定員は570名であったので、約70名の新成人が小ホールでスクリーンを見る形の参加となってしまった。その関係で、そちらにも配慮して、小ホールから入っていただき、小ホール、大ホール客席、大ホール舞台へと移動していただくような形で演奏していただいた。

また、今年は2013年10月1日をもって小金井市が市政施行55周年を迎える節目の年ということで、今回、特別に作家の林望先生からメッセージをいただき、新成人代表が代読した。メッセージの内容については、本日お配りしたプログラム裏面に記載されているのでごらんいただきたい。

今年は多摩地域を中心に国体を実施されるので、PRの意味もあり、最後に、マスコットキャラクター「ゆりーと」も登場させ、景品の抽選会を行った。その後、ほぼ定刻どおり無事終了ということである。

報告は以上である。

(本川議長)

ありがとう。何年かぶりの大雪でどうなるかと思ったが、新成人の方たちは意外と楽しそうに参加しているなという様子が見られてほっとした。

(伊藤副議長)

あの場でちょっと気になったことは、皆さんそれぞれ考え方があって、国旗国歌に関しては来賓の対応が様々で、あれは新成人から見ても違和感を覚えたのではないかと思う。

(佐野委員)

私も参列させていただいた。雪の中、本当にかわいそうだなと。議長がおっしゃったように、それなりに楽しんでいた。

私が帰りに出会った新成人に「おめでとうございます」と言ったら「ありがとうございます」と言う女性もいたし、羽織袴を着た男性もいたが、「ありがとうございます」と言って、すごく素直だなという気がした。基本的にはすごく素直な青年だなという感じを私は持った。

(中村委員)

かなり準備が大変だったと思う。実行委員の皆さんもそうだし、行政の皆さん、特に私は壇上から、公民館長が少し元気な新成人をいさめたり、なだめたりと奮闘されている姿が見えて、本当に御苦勞をされたのではないかと感じた。そういうのは本当に一部の人で、大多数の人は真面目に式を祝おうということで来られているのに、そういうちょっと残念な人のために全体が足を引っ張られるというのは非常に残念なことであったと思う。

成人の実行委員の方も、周りに配慮されたすばらしいご挨拶もあって、非常にいい式だったと思う。本当に御苦勞さまだった。お世話になった。来賓であるにもかかわらず当日欠席の席がかなり目立ったというのは、成人式を迎える皆さんに対して本当に失礼だと思った。今後、そのあたりを、本人の自覚の面もあると思うが、成人の方に対して、来賓が壇上で歯抜け状態というのは本当に失礼だと思ったので、その辺を今後考えるべきではないかと私は思った。

以上である。

(伊藤副議長)

せっかく晴れがましい、これから人生のスタートを切るときだから、心から祝ってあげたい。それだけのことである。

(本川議長)

それと、実行委員の、表に出てきていたのがみんな女の子だった。去年は男性もいたように思うが。

(事務局)

去年は男性2名がいて、実行委員長も男性であったが、今年度は女性のみで構成されており、当初は男性も入れたいということでお声がけはしていたが、なかなか難しく、女性のみの実行委員ということになった。

(樹委員)

どういうふうにも募集されたのか。

(事務局)

市報、公式WEB等でも募集しているが、現実的には、なかなかそのような手段だけでは集まらない。今年由市子連にご協力頂き、ジュニアリーダーという、ボランティアを子供のころから経験している子供たちに、お声かけし集めた次第である。

(樹委員)

やはり市報や市のホームページを見ない世代である。うちは19歳の息子がいるが、私が一生懸命市報を読んでいても彼が興味を示すことはない。来年はぜひ息子の背中を押したいと思う。

(事務局)

よろしく願います。

(本川議長)

すごくいい経験になると思う。思い出にもなる。やはり一生の思い出づくりの一環になるのではないかと。ぜひ押し付けていただきたい。

成人式の行事について、何かほかにあるか。

なければ次に進ませていただく。(2)蔵書点検に伴う図書館特別休館について、館長、願います。

(2)蔵書点検に伴う図書館特別休館について

(田中図書館長)

図書館の特別休暇について、口頭にてご報告する。

図書館では毎年この時期に、蔵書資料の的確な把握のため、特別休館により蔵書点検を実施している。今年も平成2月18日の月曜日から26日の火曜日までを本館、前原町の西之台会館図書室、それから移動図書館車を対象に、3月4日の月曜日から7日の木曜日までを東分室及び緑分室を対象に、特別休館する。

蔵書点検の結果については、3月以降の社会教育委員の会議でご報告をさせていただきます。

報告については以上である。

(本川議長)

何かご質問はあるか。

では先に進ませていただく。(3)第22期小金井市公民館企画実行委員の選任について、公民館長、願います。

(3)第22期小金井市公民館企画実行委員の選任について

(大関公民館長)

過日、本館及び東分館の企画実行委員2名の方から、一身上の都合により退任届

が提出されたこと、また昨年7月に改選のため、新たな第22期の企画実行委員の募集を行ったところ、1名が欠員だったことに伴い、合計3名の補充選出を行った。

内容については、平成24年10月15日の市報で追加募集を行ったところ、4名の方から応募をいただき、11月20日に調整会を行った。

その結果、別紙のとおり3名の方を選出、過日の教育委員会にてご同意をいただき、平成25年1月8日付で追加委嘱した。よろしく願います。

以上である。

(本川議長)

何かご質問はあるか。

(中村委員)

今、公民館長がおっしゃった、4名から3名に絞り込まれた調整というのは、どういうふうにしたのか。

(大関公民館長)

先ほど申し上げたが、本館と東分館と貫井南分館が欠員になった。4名なので1人はなれないということで、どこの分館に行きたいか希望をとった。お互いわからないように紙に書いていただいた。本館と東分館については1名ずつだったので、そのまま決定させていただき、貫井南分館だけ2名重複したので、その2名について、抽選をさせていただき、決定した。

(中村委員)

ありがとう。

(本川議長)

ほかに何かあるか。

なければ、次にその他に移らせていただく。

平成24年度第5ブロック研修会報告書を伊藤委員から出していただいているので、報告をお願いします。

(4) その他

(伊藤副議長)

第5ブロックの研修会でユニークだった点は、府中ばやしをやっておられる方々が、それぞれ各グループに入っていて、社会教育委員の方々とディスカッションしたことである。今までの研修会では、ゲストでお見えになった方々が直接委員会のほうに入ることはなかったように記憶している。ここに書いてあることは、それぞれ配られたプリントの抜粋というか、特に明治大学の先生の基調提案については、先生が用意されたレジュメの中から、特に印象に残った部分をリストアップしただけなので省略する。

むさしのジャンボリーというのは、これは前回、武蔵野市が会場のときにお話いただいた内容である。そのほか、グループごとの詳細は細かく覚えてはいないが、結論

として、出会いが学びだという結論である。自己紹介か何かをきっかけに話し合っ、その場からいろいろなヒントが生まれて、それがいつの間にか自分の学びにつながっていく。そういう関係がごく自然に生まれてくるのかなという印象を受けた。出会いこそ学びであるという結論になったように記憶している。

(本川議長)

第5ブロックは大変仲がよくて、いろいろな意味で、みんなで手を取り合いながらいろいろなことに取り組んでみようという雰囲気がある。それでは続いて交流大会の報告をお願いします。

(樹委員)

昨年12月1日に、稲城の中央文化センターで開催された交流大会に参加させていただいたので報告をさせていただきます。

当日は冷たい雨の日であったが、本川議長、本多さん、佐野さんと、今回は4名だったと思うが、ちょっと少人数になって、いつも小金井は大挙して押し寄せていくという感じなので、ちょっと寂しい参加人数であった。

交流大会はいつもどおり最初に式典があり、都市社連協の遠藤会長のご挨拶、また来賓として稲城の市長さんほか2名の方の祝辞をいただき、あと、長年社会教育に貢献してこられた方たちの表彰式があった。2番目として、各ブロック研修会、今も第5ブロックの研修の報告があったが、ほかの第1ブロック、第2ブロック、第3ブロック、第4ブロックと、皆様の研修会の報告を聞かせていただいた。3番目として講演があり、慶應義塾大学文学部教授の渡辺先生の講演で、「現代型家族の問題点について～社会教育が地域のためにできること～」という演題で行われたが、皆さんにも配られたレジュメの最後についている先生の書評からお話が始まり、これは「三田評論」という慶應大学の中で発行されているものようだが、小泉信三という方が書かれた「海軍主計大尉 小泉信吉」、息子さんのことを書いていらっしゃるということであるが、ここで、渡辺先生がこの書評の中で引用されていた、小泉信三の書かれた本の本文ということで、私もとても感動したので、それを2つ書き抜きさせていただいた。

小泉信三という方は25歳で戦死をする、その戦死をしてしまった息子のことを、一つは思い出を残していくとか、人となりを残していくとかで書かれたのがこの本のようなのであるが、ここに、父親像や親の気持ちというものが大変出ているなと思い、小泉信三氏が家族というのがこういうものなのだという、叫びとか、私たちが時代は違うが忘れてはいけない心、また本当に親としての愛情を感じる言葉だったので、「25歳まで生きられないとしても、またあなたを子供に持ちたい」という、その叫びに本当に感動して、これこそがまた一つの家族像だなとも思った。

ここから、その後は家庭教育に関する国際比較の調査ということで、日本、韓国、タイ、アメリカ、フランス、スウェーデンの6カ国からサンプルを回収して比較したもので、日本の親が、アジアの国とは結構似ているところもあるが、やはりアメリカやスウェーデン、フランスとはちょっと違って、例えば父親と子供の接触する時間が

すごく短いとか、母親が子供と接触している時間と父親が子供と接触している時間の差が大きいとか、そのような結論が出ていたり、また、親になった上で悩みを相談するところも、誰に相談するのかというところも、日本はなかなか、公的な施設とかで相談がしにくいとか、細かいデータがたくさん出ており、感心するところもあれば、自分自身が子育てをしてきた中で「そうだったな」と思うところもあれば、立ちあい出産をする割合とかそういうものまで出ていて、それとイコール家庭教育とかそういうものがイコールになっていくのかなというところで、何とも結びつけられないところもあるが、興味深いデータが出ていたと思う。

親子関係の諸類型ということで、分離的支持、密着的支持、密着的不支持、分離的不支持という4つに大きく分けられるというお話もあり、子供の社会性を育てていくためにはこの分離的支持、少し離れてしっかりサポートをしていくということが大事で、幼児期の密着的支持というのは仕方がないことだと思うが、そこから分離的支持へ移行していきける親子関係をつくっていくということが大事なのだということも学んだ。

また、求められる養育関係として、多くの人がかかわるということが大事で、親子だけの親子カプセルというものをつくってしまうことが社会から隔離されることになるので、親子の関係だけではなく、親族のネットワークや地域のコミュニティとかかわりを持っていく、そこに社会教育の役割があるのだということを感じて帰ってきた。

交流会に伺うと、グループの各ブロックの報告を伺っていても、本当に地域の中で活動されている方がたくさんいらして、感動して帰ってくることが多いが、社会教育委員として、本当に私にはまだまだ何もできないが、学んだことをまた自分の活動の中に生かしていきたいと思う。参加させていただき、ありがとう。

(本川議長)

ありがとう。

(佐野委員)

最初の演奏も大変よかったなと思う。

(樹委員)

何もわからないうちに演奏が始まった。稲城市の社会教育委員の方とそのお嬢さんの演奏だということだった。

(本川議長)

交流大会に出られた方、報告ありがとう。

ほかに何かあるか。

(田中図書館長)

お手元に平成24年度東京都多摩地域公立図書館大会というチラシをお配りさせていただいた。

これは、図書館長協議会という三多摩の図書館で組織している協議会があるが、そ

ここで毎年この時期に、多摩地域の公立図書館大会というものを開催している。いつもご案内をしておらず申しわけなかった。

今回、私どものほうで実行委員会の委員長を務めさせていただいている。内容については第1分科会から第5分科会までである。申し込み方法については、私どもに申し込むか、あるいは直接会場のほうに行っていたいただければ結構かと思う。

内容については、東日本大震災があったので、その時の図書館が被災した風景の状況の報告をいただき、今年についてはどういうふうに復旧から復興へ進んでいるかということテーマにした内容となっている。

もし、ご関心があれば、無料であるのでぜひご参加いただければと思います、きょうご案内を差し上げた。

以上である。

(本川議長)

時間のある方はぜひ参加して欲しい。

ほかに何かあるか。

(樹委員)

放課後子供教室運営委員会であるが、平成24年10月18日に会議が行われ、そのときには今年度の放課後子供教室が順調に運営されているという報告があった。今月、1月30日の水曜日、2時から、第4小学校の放課後子供教室の見学をさせていただくことになっているので、またそちらのほうも次回会議で報告をさせていただく。

以上である。

(佐野委員)

お知らせであるが、小金井市体育協会の新春のつどいが今週の土曜日、19日にあり、皆様のところにご案内が行っていると思う。お時間の許す限り来ていただければと思っている。懇親会は4時30分からである。その前に表彰等の式典がある。よろしくご参加いただきたい。場所は体育館である。

(本川議長)

私のほうから都市社連協についてお話しさせていただく。

去年度の総会るときにちょっともめて、会長市提案の会則改正についての議案が出て意見がいろいろ出た。その経緯についてはここで報告させていただいたと思う。改正ありきでずっと検討がされており、ここがちょっと問題である。

アンケートを提出したことについては報告させていただいていると思う、その後、改正案について、修正ありかなしかで返事をくれということであった。

私としては、修正というのは原案が来ているが、それに対しての修正があるかないかということ saying きたのであるが、小金井市としては、前にも申し上げたように、改正しなくても読み込み方で十分対応できるので、今、会則は変更しなくてもいいのではないかというスタンスでいたので、そのように回答させていただいた。アンケートの段階で改正に賛成していなかった自治体の議長が集められ平成24年12月27

日に会議があったが、私は所用により欠席させていただき、代わりに文書を提出させていただいた。これは私の名前で出しているので、全体の考え方というところからはちょっとずれるかもしれないが、それはご勘弁いただきたいということで、今までの中でいろいろあったことも含めて書かせていただいた。

ちょっと読ませていただく。「まず、先日の説明会でのQ&Aについてであるが、“都市社連協の参加する意味を特定するのではなく、各自治体で都市社連協に参加する委員を決めればよいと思う”とのことであるが、都市社連協は東京都市町村社会教育委員の連絡協議会であり、原則は文字どおり社会教育委員の集まりであると考えている。ゆえに、少なくとも現段階においては、各自治体で都市社連協に参加する委員を決めればよいということではないと考える。」このようにまず申し上げさせていただいた。

「社会教育委員ではない委員が参加するのはどうかということであるが、以後、それが協議されていない。そのことを含め、「協議はしてきたつもりである」ということであるが、全体での協議をしているとすれば、その経過をお示しいただけるか」と、これはリアクションとしては全くなかった。

次に、「“都市社連協が各自治体で決定した事柄について意見を言う立場ではない”ということであるが、これは正式に都市社連協の組織として上から下へという形で申し入れをするべきであるということではなくて、単純に事務的な調整をするという意味ではないか。このことは、極論を言えばある市が社会教育関係の審議会の委員を全て都市社連協の会員として参加します、総勢50人ですと言われたときに、そのまま意見を言う立場ではないので受け入れるということになってしまうことを想定してのご判断であるか」というふうに投げかけたが、これに対しても答えはなかった。

次に、「“これまで理事会を通れば定期総会で承認されているという流れで来ていたという”ということであるが。理事会で十分な議論をすれば、定期総会でそのまま承認されるのはこれまでも同じである。今回のケースのように、理事会で十分な議論をされないままに定期総会で付議すれば、定期総会においても再度活発な議論がなされるのも同様である。

総会のときに、活発にいろいろな方からのご意見をいただいたということである。これは理事会のときに、前にもお話ししたが、ほとんど何の説明もないままスッとしてしまった。気がつかないような状態で、本当に反省はしている。そういうことを指している。

その前のときにも議案については事前にきちっと、当日配付ではなく事前に配付してくださいということを申し入れはさせていただいている。

現状においても、社会教育委員という文言をさまざまな解釈をすることで必要十分に柔軟な運用を行っていると考えている。十分対応していると思うので、改正するという判断に至った理由についてであるが、「社会情勢が変化する中で、新しい形の審議会をつくる自治体がふえていくことが予想される」ということであるが、だからこそ、十分な審議が必要であると考えている。

現状の会則でも、定期総会で個別に参加を承認することで十分に円滑かつ円満な運営を図れていると、私は考えている」ということを申し上げさせていただいた。

「それで、今回、急いでこの改正をしようという一つの理由として、人の入れかわりについて挙げている。社会教育委員というのはどんどん替わるし、会長市や執行部もかわるという意味であるが、これは特に自治体について言っているが、人が入れかわって、意見も変わることは容易に想像がつく。その時その時の判断があってもいいと思うが、丁寧な議論を省いていいという理由になるとは思えない。」とさせていただいた。

「いつ、どのような内容で改正するかを示した上で、賛成か反対か、意見はあるかというような手続を最初から行い、総意と言える状態まで丁寧な議論を積み重ねるのが本来の社会教育にかかわる人間のあり方であると考えたい。アンケートの結果を理由に、このまま強硬採決などをなされば、東京都市町村社会教育委員連絡協議会の運営の歴史に禍根を残す結果になったりはしないかを危惧する、」というふうに結んだが、会長市としては、多摩市から丸投げされて非常に困っている。とにかく総会で継続して今期で決めるようにという雰囲気があるので、何としても次期総会では諮りたいということである。

私としては、皆さんのご意見を聞かないまま、このような形で出させていただいているが、それは個人としてということで、ここのアンケートに、一番上のところであるが、ここに修正等について、なし、ありに○をつけろと書いてあるが、これをしなかった理由は、もし○をつけてしまえば、どちらにしろ、小金井市の社会教育委員の会としての総意になってしまうので、総会の際に自由に委員の皆さんからご意見を発することがやりにくくなると思ったので、ご意見のある方はどちらに賛成してもいいようにしておいた。そういう意向があり、修正等に、なし、ありには○をつけないでそのまま出させていただいた。

(倉持委員)

感想になってしまうかもしれないが、今、調布市の社会教育委員の会議にも関わっているが、調布市でもこれはすごく話題になっていて、やはり議長がすごく怒っている。これは社会教育委員というものを各自治体がどのように捉えるかということによるもので、もっと大きく社会教育をどうしたいかということである。多摩市の場合。委員の構成が大分違ってきているし、範囲も大分違ってきているというところが、この事実をどのように捕えるのか、議論をし尽くさないといけない。何でもありという感じでやっていくか、それとも厳格なルールの中でやっていくのか、かなり重要な論点にもかかわらず、大分さらっと進められているのが不思議である。

だから、第5ブロックは真剣に疑問を持ち、議論をしているというお話を伺っていて、当然、議論をしましょうということを提案しているのだろうと思っているが、ほかの自治体、なかなか会議の回数が少ないような自治体、社会教育委員の会議で、なかなかそこまで突き詰めて意見交換する場もないのだろうから、一人一人の委員さん

はというお話があったが、そこまで問題意識を高めていくのは難しい状況なのかもしれない。

(本川議長)

ありがとう。調布の岡田議長は長い経験がおありになるから、本当に社会教育委員の会議という部分を、名称も含めて、職務も含めてであるが、すごく大事に思っている。

(伊藤副議長)

平成24年12月18日に、三者合同の検討委員会、仮称であるが小金井市の生涯学習支援センターの創設ということで、検討委員会が行われ、いろいろ話が出たが、要点だけ申し上げると、また2月4日に再度検討委員会があるが、それまでの宿題として、メンバーに対して4つ宿題が課された。

1つは、生涯学習支援センターはなぜ必要なのか。2つ目として、三者が求める生涯学習支援センターの機能をどのように捉えるのか、3つ目として、実現に向けて、行政に何を求めるのか。これも具体的に記述してこいということ。4つ目として、以上3つに関する事、それ以外の要望事項。以上の4点である。以上である。

(事務局)

事務局から1点ご案内をさせていただく。チラシを配布しているが、平成25年2月24日の日曜日に、武蔵小金井駅前南口、駅前ロータリー及びフェスティバルコートにおいて、午前10時から午後3時まで、小金井うまいもん選手権という事業を実施する。チラシを配布するのでよろしく願います。

(西田生涯学習部長)

これは、今度のスポーツ祭東京2013の開催記念で行うものである、今日は国体担当がいらないが、よろしく願います。ぜひ、お時間があれば顔を出していただければありがたい。

(本川議長)

それでは、ちょっと時間を超過して大変申しわけない。これで第7回社会教育委員の会議を閉会させていただく。

以上